

## 朝日村農業ビジョン検討会次第

日 時：令和3年11月29日（月）

午後1時30分

場 所：朝日村役場 大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 農業ビジョン素案について 資料1

4 その他

【次回開催】令和4年1月18日（火）13：30予定

内容：農業ビジョン案の検討

5 閉 会

朝日村農業ビジョン検討会委員名簿

	所 属	職 名	氏 名
座長	朝日村	村長	小林弘幸
委員	農業生産者		中村守一
			上條靖志
			二茅克仁
			清沢美智穂
			島田ひとみ
			青柳みよ子
			太田和美
			曾根原加奈子
	(有)ダイドー	代表	武田修
	合同会社しなの	代表	上條惣一郎
	JA松本ハイランド朝日支所	理事	上條典泰
農業委員会	会長	下田直美	
中信平右岸土地改良区	理事	清沢元就	
農業有識者		清沢正彦	

アドバイザー	松本農業農村支援センター 農業農村振興課	課長補佐兼農村振興係長	小林佳昭
	松本農業農村支援センター 技術経営普及課	主任	穂谷政人

事務局	産業振興課	課長	清沢光寿
	産業振興課 農林水産係	係長	清水達也
	産業振興課 農林水産係	主査	高山泰直
	産業振興課 農林水産係	主事補	中川さくら

令和3年11月29日

## 朝日村農業ビジョン（素案）

## 目次

### 第1章 農業ビジョンについて

1 農業ビジョン策定の背景	1
2 農業ビジョンの位置づけ	1
3 農業ビジョンの期間	1

### 第2章 農業・農村の現状

1 食と農業・農村を取り巻く社会情勢の状況	2
2 朝日村の農業の状況	3
3 朝日村の農業の重要課題	4

### 第3章 農業の目指すべき方向性（将来像）と施策

1 基本理念	5
2 基本目標	5
3 施策体系	6

### 第4章 農業ビジョンの実現に向けて

1 農業ビジョンの周知と着実な推進	9
2 農業ビジョンの推進体制	9
3 農業ビジョンの進行管理	9

### 資料

1 策定の経過	
2 委員会設置要綱	
3 委員名簿	
4 委員会の意見（強み、弱み、課題）	

## 第1章 農業ビジョンについて

### 1 農業ビジョン策定の背景

朝日村は、自然豊かな自然環境を有し、かん水設備等が整備されてきたことで、農業を基幹産業として発展してきました。特に、冷涼な気候を生かして栽培されているレタス、キャベツ、はくさい等の高原野菜は有名で、県内有数の生産地となっています。本村で生産される農産物はおいしく、農業は魅力ある産業となりつつあります。

一方で、国では、少子高齢化や人口減少により、農業従事者の高齢化や後継者不足等が深刻な問題となっています。また、近年、気候変動や外国産農産物の輸入等により、国内産の農産物の出荷量は減少傾向にあります。本村においても、全国的な傾向と同様に、高齢化や後継者不足等により、農家戸数、農業従事者の減少がみられ、山間地における農地の遊休化や荒廃化の進展などの課題が見受けられます。

これらの状況を踏まえ、本村に農業振興を進める意義を改めて確認し、農業分野の課題解決と村農業の活性化を図るため、今後取り組んでいく農業政策の指針となる「朝日村農業ビジョン」を策定し、農業振興を進めていくものです。

### 2 農業ビジョンの位置づけ

朝日村は、令和2年3月に「朝日村第6次総合計画」を策定し、村の行く先10年を示す羅針盤としました。「基本戦略2 一人一人が活躍できる村をつくります」の章での、「重点目標3 村の産業振興と村民の雇用確保」の項では、「主要施策1 農産物の安定生産や多角化経営をめざした農業振興を行います」と、村の姿勢を定めています。

今後の方向性として、『安定的に高品質な農産物を生産することができるよう、農地保全の推進や生産基盤の整備、有害鳥獣駆除対策等を進めます。また、農地の集約化と担い手の確保等により、生産性を高めるとともに、官民連携による生産・流通・販売基盤の強化、消費拡大のための取組を推進します。』としています。

これらを踏まえ、さらに、国の「食料・農業・農村基本計画」、長野県の「長野県食と農業農村振興計画」等の内容も踏まえ、本村の農業振興を推進するための指針を示すものとします。

### 3 農業ビジョンの期間

本ビジョンは、10年後、20年後、30年後を見据えた村農業政策の指針となるものです。近年の農業を取り巻く環境の急速な変化を鑑み、必要に応じて見直しなどを行いながら継続的に進めていきます。

## 第2章 農業・農村の現状

本村の総人口は、平成12年（2000年）の4,908人をピークに減少に転じ、令和2年（2020年）では4,282人となっています。一方、世帯数は、人口が減少に転じた平成17年以降も増加している（平成12年1,316世帯、令和2年1,475世帯）ことから、世帯の小規模化が進んでいることがうかがえます。高齢化率（65歳以上の人口に占める割合）は、平成27年（2015年）で30.1%と、全国（26.7%）よりも高く、長野県（30.1%）と同程度となっています。 ※統計値は国勢調査

農業では、農業者の減少と高齢化が進むとともに、人口減少などに伴う消費の減少や価格への影響などが懸念されます。食では、核家族化やライフスタイルの変化、孤食や外食・中食などの増加などにより、食に対する考え方や価値観が変化しています。村では、都市部に比べ人口減少の傾向が顕著となっており、荒廃農地の増大や野生鳥獣被害の拡大が懸念されます。

このため、現状と課題を分析し、稼げる農業豊かな食生活、幸せに暮らせる地域づくりを進めていくことが重要です。

### 1 食と農業・農村を取り巻く社会情勢の状況

- ・国際化が進展し、今後、農産物輸入量の増大が予測され、国内農業への影響も懸念される中、競争力の強化や輸出に対応した生産体制の整備など国際展開への対応が重要となっています。
- ・我が国の総人口は、平成20年（2008年）の1億2千8百万人をピークに減少に転じ、2050年には1億人を割り込むと予想されています。長野県では、平成12年（2000年）の221万5千人をピークに減少に転じ、当面は生産年齢の人口を中心に総人口の急激な減少が続くと予測されます。本村においても人口減少と併せて高齢化が進むことが見込まれることから、農業生産力や農村コミュニティを維持・強化していくことが重要となっています。
- ・情報収集・発信の多様化と価値観が変化しており、消費者や実需者のニーズを的確に把握するとともに、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を使った情報発信による需要の創出など、新たな展開が求められています。
- ・全国的な農業・農村に対する意識が変化し、定住者や定年帰農者など移り住む者と、地域住民がお互いを尊重し合い、ともに支え合う暮らしづくりが重要となっています。
- ・世界中の誰もが力を合わせて、地球上の自然の恵みを大切にし、人権が尊重され、すべての人が豊かさを感じられる平和な世界づくりをめざし、2015年に国連においてSDGs（持続可能な開発目標）が採択され、実現に向けて、各国の政府、地方自治体、企業、農業者など一人ひとりが役割を持って積極的に取り組むとともに、それぞれがパートナーシップを築き、協力・連携し合うことが求められています。
- ・地球温暖化による気候変動は、世界の農業生産に大きな影響を及ぼす可能性があるとして予測されています。農業分野においては、小水力発電エネルギーの地消地産、施設園芸や農業機械の省エネルギー化、農地や畜産分野から排出されるメタンガス等の削

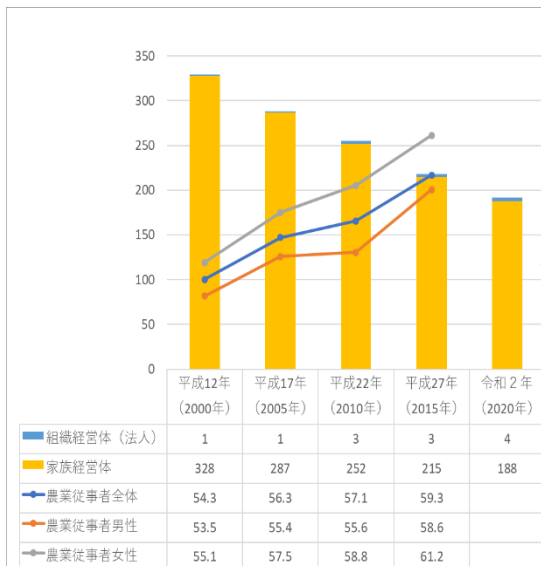
減、農業資材のリサイクルなどの取組が求められています。温暖化に対応した生産技術の確立も求められ、品種の育成や異常気象の影響に対応する栽培技術等の開発が急務となっています。

- ・新型コロナウイルスの影響により、我々のライフスタイルは大きく変化し様々な場面で対応が迫られています。

## 2 朝日村の農業の状況

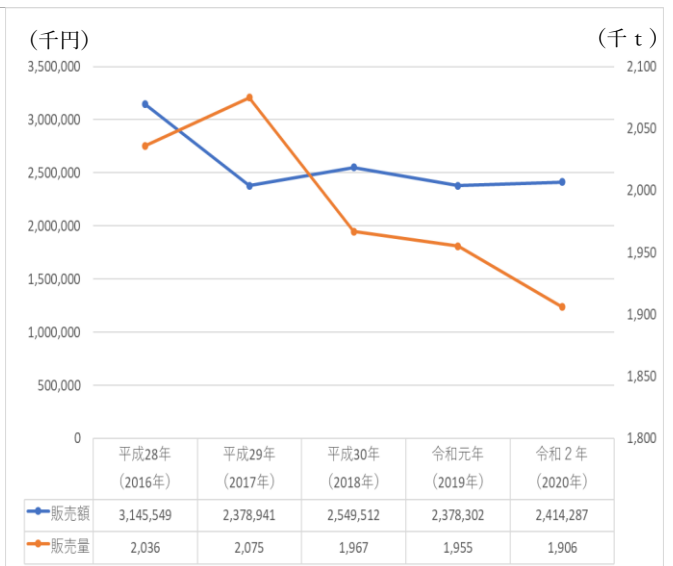
- ・農業者の高齢化等に伴う経営規模の縮小やリタイアが今後急激に進む見込みで、新規就農者確保の取組も進められていますが、更なる強化が求められています。一方で、家族経営が主である本村では農業経営体の法人化や集落営農組織の育成等の取組は進んでいない状況です。
- ・古見原や西洗馬原など条件の良いほ場は、担い手への集積が進む一方、山際などの狭小で不整形な農地は利用集積が進まず、また、鳥獣被害にも合いやすく遊休農地が拡大しています。農地を有効に利用するため、6カ所では場整備（1カ所竣工済）が進められ、鳥獣柵は整備がほぼ完了しています。
- ・露地栽培が主であるため、大雨や雹などの自然災害の影響を大きく受けてしまいます。
- ・全国的な人口減少などによる外食需要の縮小に伴う需要不足により、野菜価格の低下や出荷調整が必要である傾向が続いています。

農業経営体数と平均年齢の推移



出典：農林業センサス

JA 松本ハイランド朝日支所販売額と販売量



出典：JA 調べ

### 新規就農者数

	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)
新規就農者（人）	4	3	2	3	0

出典：産業振興課調べ

### 3 朝日村の農業の重要課題

限られた資源・財政（ヒト・モノ・カネ）を有効に利用し、施策・事業を進めるために、検討会等において朝日村の農業の長所（＝強み）、短所（＝弱み）という視点で分析し重要課題をまとめた結果、次のようになりました。

#### 視点① 担い手と生産基盤

- ・高齢化、後継者問題
- ・新規就農者の確保、育成
- ・人、農地の集積集約
- ・耕作放棄地の増加
- ・風食対策、鳥獣害対策

#### 視点② 農業生産と経営

- ・多様な経営（農業）スタイル
- ・女性農業者の経営参画
- ・販路の開拓
- ・気候変動、天候不順への対応
- ・農業支援策の充実
- ・朝日ブランドの確立

#### 視点③ 農業に係る連携と新たに求められる農業

- ・生産者、行政、事業者の連携
- ・SDG s（有機農業、化学農薬使用量低減、ゼロカーボン化）
- ・スマート農業

※委員から出た意見については参考資料による



## 第3章 農業の目指すべき方向性（将来像）と施策

### 1 基本理念

# 「豊かな自然と大地を生かし、次世代につなげる農業と 誰もがチャレンジできる農業の実現」

朝日村の持つ豊かな自然環境の特性を生かし、人材を育て、農地を守り、農業所得を向上させることによって、次世代に安心してバトンを渡せる、持続的に発展する活力ある朝日村農業を目指します。

### 2 基本目標

基本理念を目指し、朝日村農業ビジョンを推進するための基本目標は次の3点とします。

#### ① 担い手の育成・確保と農地・施設の有効活用

次世代を担う農業従事者の育成・確保に努めるとともに、農地の集積・集約と保全を推進します。

#### ② 農業所得の維持・向上

農業経営の安定や農業所得を向上させる施策を推進します。

#### ③ 環境の変化に対応した農業の推進

農業を取り巻く環境の変化に対応し、安心・安全で効率的な農業を推進します。

### 3 施策体系

基本目標
1 担い手の育成・確保と農地・施設の有効活用
次世代を担う農業従事者の育成・確保に努めるとともに、農地の集積・集約と保全を推進します。
課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化、後継者問題</li> <li>・ 新規就農者の育成・確保</li> <li>・ 人・農地の集積集約</li> <li>・ 耕作放棄地の増加</li> <li>・ 風食対策、鳥獣害対策</li> </ul>



項目	施策方針	施策例
① 多様な担い手（人材）の育成・確保	(1) 新規（親元）就農者への支援  (2) 経営が維持できる体制の推進  (3) 村内外への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規（親元）就農者への設備投資に対する補助等支援制度の研究（例 農業機械購入費等の補助）</li> <li>・ 新規就農者の住居の確保</li> <li>・ 農地取得要件の緩和</li> <li>・ 研修プラン、農業モデルの作成、提案</li> <li>・ 多様な就農希望者を対象とした農業塾の展開</li> <li>・ 里親制度の周知、推進</li> <li>・ 法人化や集落営農等グループ農業の研究と推進</li> <li>・ 人材不足等による労働力の確保（働き手情報の提供や農業マッチングアプリの活用促進等）</li> <li>・ 不足する担い手の受皿として企業の農業参入を研究</li> <li>・ SNS等を利用した朝日村農業の発信</li> <li>・ 観光農園や農業体験プログラム等観光事業と連携した事業の展開</li> <li>・ 次代を担う子どもへの食育・農業体験の推進</li> </ul>
② 農地の集積、集約化と有効活用	(1) 担い手に農地の集積、集約化  (2) 荒廃農地の発生防止と再生・有効利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人・農地プラン実質化の推進</li> <li>・ 担い手農地集積に向けた支援制度の検討</li> <li>・ 守る農地とその他の農地の区分けと土地利用の方針検討</li> <li>・ 農地パトロール実施</li> <li>・ 農地情報の提供</li> <li>・ 農地相談の定期的な開催</li> <li>・ 荒廃農地再生支援制度の検討</li> <li>・ 条件不利地での作物研究</li> </ul>
③ 農地・農業施設の充実と保全	(1) 農業生産基盤の整備  (2) 農業用施設の整備と維持  (3) 農地の風食対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほ場整備の実施</li> <li>・ 農道の適切な維持管理</li> <li>・ 用排水施設の改良と適切な維持管理</li> <li>・ 灌がい設備の更新（右岸土地改良区との連携）</li> <li>・ 鳥獣防止柵の地域一体となった管理の維持</li> <li>・ 防災重点ため池の適正な維持管理</li> <li>・ 麦播種の統一的な推進と対策の検討</li> </ul>

基本目標
2 農業所得の維持・向上
農業経営の安定や農業所得を向上させる施策を推進します。
課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な経営（農業）スタイル</li> <li>・女性農業者の経営参画</li> <li>・販路の開拓</li> <li>・気候変動、天候不順への対応</li> <li>・農業支援策の充実</li> <li>・朝日ブランドの確立</li> </ul>



項目	施策方針	施策例
① 多様な経営（農業）スタイル	(1) 半農半Xやデュアルライフ（二地域居住）等の推進 (2) 女性農業者の経営参画 (3) 農泊事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半農半Xやデュアルライフ（二地域居住）の研究（経営・技術指導）</li> <li>・多品種、多品目栽培による農業参画</li> <li>・家族経営協定の研修会参加への促進</li> <li>・女性農業者団体等への支援策検討</li> <li>・地域資源を活用した食事や農業体験・交流の推進</li> </ul>
② 販路の開拓	(1) 地産地消の推進 (2) 廃棄野菜等における販路検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産物（野菜、きのこ、加工品等）販売支援</li> <li>・販売施設の検討</li> <li>・やさいバスの推進</li> <li>・地元農産物を活用した料理や加工品の研究</li> <li>・保育園や小学校との連携による地元農産物の消費拡大</li> <li>・農業経営・販路セミナー等の開催</li> <li>・加工品の研究</li> </ul>
③ 自然への対応	(1) 温暖化に対応した品目の研究 (2) 冬季農業の検討 (3) 自然災害等への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境変化に適応した葉野菜+αの品目研究（他の作物への転換）</li> <li>・冬期の農業について研究（方法、品目等）</li> <li>・安心して農業ができる補助の検討（農業振興基金等の検討）</li> </ul>
④ 農業支援策の継続	(1) 経営に関する補助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃プラスチック処理補助金の継続（適正な回収・処理）</li> <li>・安定基金積立金補助の継続</li> <li>・安定・継続・チャレンジにつながる農業補助等の検討</li> </ul>
⑤ 朝日ブランドの向上	(1) 地場産物のPR (2) 差別化やイメージ戦略を検討 (3) 6次産業化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップセールスの継続（JAとの連携）</li> <li>・特色ある農産物の発掘（例 ぶどうや花きの栽培）</li> <li>・加工施設の研究（特産品の開発）</li> <li>・6次化推進支援制度の検討（人・団体や民間参入の育成・支援）</li> </ul>

基本目標
3 環境の変化に対応した農業の推進
農業を取り巻く環境の変化に対応し、安心・安全で効率的な農業を目指します。
課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者、行政、事業者の連携</li> <li>・SDGs（有機農業、化学農薬使用量低減、ゼロカーボン化）</li> <li>・スマート農業</li> </ul>



項目	施策方針	施策例
① 課題の解決	(1) 生産者、行政、事業者の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村、JA、県との意見交換会の定期的な開催</li> <li>・農業者と農業委員会の連携強化</li> <li>・アグリチャレンジセンターによる支援</li> <li>・朝日村の農業を推進するための協議会設立</li> </ul>
② SDGs（有機農業、化学農薬使用量低減、ゼロカーボン）の対応	(1) 有機農業の推進 (2) 循環型農業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業・低化学農薬農業の学習会、講習会等の開催</li> <li>・山林資源を活用したエネルギー（バイオマス発電）による農業への活用について研究</li> <li>・廃プラスチックの回収・処理の徹底や排出抑制、生分解性マルチの利用拡大の推進</li> <li>・環境負荷軽減に取り組む生産者への補助制度の検討</li> </ul>
③ 革新的技術導入による効率化	(1) スマート農業の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会、講習会等の開催</li> <li>・スマート農業等による人手不足解消や効率化に取り組む生産者への補助制度の検討（ドローンによる肥料・農薬散布や自動走行農機の導入など）</li> </ul>

## 第4章 農業ビジョンの実現に向けて

### 1 農業ビジョンの周知と着実な推進

このビジョンを展開し、基本理念や基本目標を実現するためには、村、県、JA、農業者等が連携すると共に、全村民に理解され、施策を推進する必要があります。そのため、ホームページ等の媒体を利用して、ビジョンの趣旨や基本理念を周知しつつ、多くの意見を取り入れながら着実な推進を図ります。

### 2 農業ビジョンの推進体制

朝日村農業ビジョンを実現するために、村・農業委員会・県・JA・農業者等がそれぞれの基本的な役割に基づき一体となって村民の理解のもと事業を推進します。

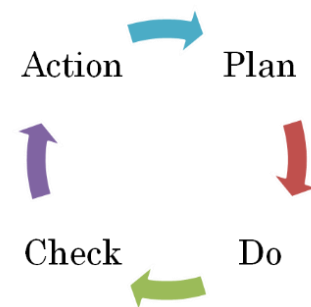


### 3 農業ビジョンの進行管理

農業ビジョンは策定して終わりではなく、いわゆるPDCAサイクル（計画 PLAN - 実行 DO - 検証 CHECK - 改善 ACTION）により、継続的な進捗管理を行い、常に改善につなげていくことが必要です。

目標や計画の達成状況について定期的に検証・評価し、実施手法の改善や計画の見直しに反映させていくものとします。

また、ローリング（計画の定期的な見直し）についても、計画を実態やその時点における環境に照らし合わせて見直しを行い、適宜農業ビジョンにおける目標や施策、実施体制等について変更を実施していきます。



家族間の十分な話し合いに基づき取り決めるの。

**① SDGs（エスディージーズ）**

持続可能な開発目標という意味で、2015年に国連で採択された2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標こと。17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っており、日本としても積極的に取り組んでいる。

**② スマート農業**

ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化や高品質生産を実現する新たな農業のこと。スマート農業の一例として、ロボットトラクタや水田の水管理システムなどがある。

**③ 人・農地プラン実質化**

地域農業における中心経営体、農業の将来の在り方等を明確化した「人・農地プラン」を、実態に合わせて実施していくために地域で話し合いを行うこと。

**④ 6次産業化**

農林漁業者（1次産業）が生産物の価値を上げる為、農畜産物・水産物の生産だけでなく、食品加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）にも取り組み、それによって農林水産業を活性化させ、農山漁村の経済を豊かにしていこうとするもの。

**⑤ 半農半X**

半分農業、半別の仕事=Xを持つ生き方。

**⑥ デュアルライフ**

都市と農山漁村、2つの地域に拠点をもち生活するライフスタイル。

**⑦ 地産地消**

地域で生産された農林水産物を、その地域で消費すること。

**⑧ やさいバス**

野菜の売り手（生産者）が“バス停”に野菜を出荷し、買い手（飲食店、小売店等）が野菜を“バス停”まで取りに行く地域共同配送システム。

**⑨ 安定基金積立金**

指定野菜（14品目）の価格が著しく低下した場合、野菜経営に及ぼす影響を緩和するため、生産者、都道府県及び国があらかじめ積み立てた資源を財源として、生産者に対して交付する補給金。

**⑩ トップセールス**

卸売市場などで、市町村長、県知事自ら地域の特産物を宣伝すること。

## ⑪ 家族経営協定

家族農業経営に携わる各世帯員が、意欲とやりがいを持って経営に参画できる魅力的な農業を目指し、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき取り決めるの。

朝日村の農業

強み	弱み	課題
<p>～土地・農地～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畑の基盤整備が整っている(予冷库、畑かん、灌水等)</li> <li>・農地が広く、平地である</li> <li>・農地が分散されていることにより、自然災害のリスクが分散される</li> <li>・景色がいい</li> </ul> <p>～労働力～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他地域と比べて若手農業者が多い</li> <li>・若い後継者がいる</li> </ul> <p>～労働環境～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族経営のため、自由が利く</li> </ul> <p>～経営～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多品目の農作物が作れる</li> <li>・JA とのタイアップにより、安心安全な農業に取り組める</li> <li>・小規模農家が多いことで、経営の多角化が図れる</li> <li>・朝日のブランド力</li> <li>・経験がある</li> <li>・市街地に近いことで、地域内で流通を行うことができる</li> </ul>	<p>～土地・農地～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風食や長雨による病気が発生しやすい(温暖化)</li> <li>・畑が集約化されていることで、自然災害もある</li> <li>・山間地が多いため、鳥獣被害がある</li> <li>・耕作放棄地が増えてしまっている</li> </ul> <p>～労働力～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化</li> <li>・ほとんどが経営移譲のため新規参入者が少ない</li> <li>・家族経営の農家の後継者問題</li> </ul> <p>～労働環境～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共同でやるという意見を言う場が少ない</li> <li>・休みがない</li> </ul> <p>～経営～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天候に左右される農業である</li> <li>・約50年間同じ作物(レタス・はくさい・キャベツ)なので、病気や病害虫被害を受けやすい</li> <li>・作物、経営スタイルは変化していないにも関わらず、経費は増加傾向である</li> <li>・市場出荷が主なため、不安定である</li> <li>・家族経営のため生産性が上がらない</li> </ul> <p>～その他～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA と役場の連携が弱い (以前は役場が JA や関係機関、農業者との仲介を行ってくれたことで、未経験者でも就農しやすかった)</li> <li>・JA 主導になっており、ほかのところからの意見を取り入れる機会が少ない</li> <li>・全国的に見たときに、朝日村の農業には特徴がない</li> <li>・援農の申込者がいない</li> <li>・生産量が落ちている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高温が続けば、今のスタイルの農業をつづけることが難しい</li> <li>・畑、人を集積集約する</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が長い間活躍できる農業</li> <li>・新規就農支援策</li> <li>・後継者がいない</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・営農のしぐみ</li> <li>・家族で楽しくできる環境づくり</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増加している経費に対する補助などにより、経済的に安定した農業(農業者のやる気、特徴ある取り組み支援を確立)</li> <li>・現代の状況に合わせた経営スタイルを見つける</li> <li>・収入を増やすために、多様な農家、販路の開拓を行わなければならない</li> <li>・品目の見直し</li> <li>・有機農業だけでなく、科学的な有機農法</li> <li>・高品質高収入な農業にしていかななくてはならない</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA、役場、農業者の連携 (JA と役場で支援策や農業者への周知事項を具体的に話し合い、生産者がよく理解をして施策に取り組める環境づくり)</li> <li>・天候不順への対応や、それに伴う品種改良などの勉強会を開催する</li> <li>・朝日ブランドとして確立できるもの</li> <li>・朝日村のファンを増やす</li> <li>・農業体験など、新しい取り組みを行う</li> </ul>



## 課題に対する取り組みや方針

### 1 農業を維持する

課題	取り組み 方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>耕作放棄地が増えてしまっている</li> <li>畑、人を集積集約する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナが収束すれば、人・農地プランで地域ごと農業委員会も含め話し合いをしたい。</li> <li>条件の悪い圃場でも作れる作物を考える。</li> <li>組合や法人化などみんなで楽しく農業ができる環境づくり。</li> <li>大事なところを残す。</li> <li>放棄地をキレイに保つ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化</li> <li>後継者がいない</li> <li>家族経営の農家の後継者問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人や大規模農家に貸したい。</li> <li>収入面で、会社員を辞めて農家を継いでくれと言えない。</li> <li>経験がないとできない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどが経営移譲のため新規参入者が少ない</li> <li>新規就農支援策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農機具等初期投資が一番問題。独自の資金制度があればいい。</li> <li>村の新規就農支援策がない。</li> </ul>

### 2 農業を経営する

課題	取り組み 方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>作物、経営スタイルは変化していないにも関わらず、経費は増加傾向</li> <li>現代の状況に合わせた経営スタイルを見つける</li> <li>増加している経費に対する補助などにより、経済的に安定した農業(農業者のやる気、特徴ある取り組み支援を確立)</li> <li>天候不順への対応や、それに伴う品種改良など</li> <li>品目の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候は変わってきている。ただ、作物は急には変えられない。</li> <li>農協試作部会で研究している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>市場出荷が主なため、不安定である</li> <li>収入を増やすために、多様な農家、販路の開拓を行わなければいけない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出荷調整に対する支援策。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>家族経営のため生産性が上がらない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人を雇うことは大変。</li> <li>農業マッチングアプリなど民間のプラットフォームを活用してはどうか。</li> <li>若い人は、現状に満足しリスクを負って法人化しない。</li> </ul>

### 3 朝日村としての農業

課題	取り組み 方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>農業体験など、新しい取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもに食育学習</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>JAと役場の連携が弱い</li> <li>JA、役場、農業者の連携</li> <li>JA主導になっており、ほかのところからの意見を取り入れる機会が少ない</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>風食や長雨による病気が発生しやすい(温暖化)</li> <li>山間地が多いため、鳥獣被害がある</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>全国的に見たときに、朝日村の農業には特徴がない</li> <li>朝日ブランドとして確立できるもの</li> <li>朝日村のファンを増やす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何か1つでも</li> </ul>

### 4 村の農業施策

課題	取り組み 方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>圃場整備後の農地利用</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>風食対策</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>特産品の開発、販売</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>女性農業者の経営参画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家ごと考え方がるので、家族協定が進まない。話し合いながら経営はしている。薬物を大量になると女性主体ではできない。</li> </ul>

### 5 国の動向(みどりの食料システム戦略)

課題	取り組めること
<ul style="list-style-type: none"> <li>脱炭素化、環境負荷軽減</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>有機農業</li> <li>化学農薬使用量低減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>勉強しなければいけない。講習会などやってほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>スマート農業</li> <li>AIの活用による流通の合理化</li> </ul>	